10月7日号 第2691号 2004年（平成16年）
（昭和24年5月10日 第三種郵便物認可）

発行所 財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地5-3-1
電話 03-3542-3678～9
FAX 03-3541-9085
E-mail：kaiho-shinbun@jcga.or.jp
（毎週木曜日発行）
購読料 月極610円 送料共

海上保安新聞

しなやかな発想で21世紀
Nissho 日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1－14－14
TEL 03－3553－3161～4
FAX 03－3551－4898

北朝鮮工作船 12月中にも再公開へ

展示保存施設近く完成

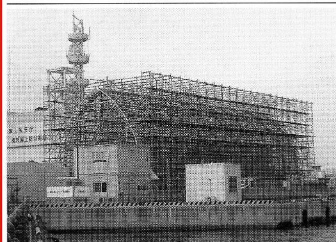
横浜海上防災基地（横浜市）で、北朝鮮工作船展示保存施設の建設が進んでいる。㈶海上保安協会が全国に支援を呼びかけた「工作船保存募金」で建設されている施設の中には、架台に置かれた工作船がブルーのシートに包まれて設置されている。骨組みの鉄骨が工作船を囲むように組まれ、外壁の取り付けが始まった。今後、内外の整備が進められ、施設は11月末に完成する。12月中には新たな施設で、工作船や搭載されていた上陸用の小型舟艇、武器類などが再公開される予定だ。

平成13年12月に起きた九州南西海域工作船事件。工作船の現実を知ってもらおうと、海上保安協会は海上保安庁、日本財団、船の科学館の協力を得て、昨年5月から今年2月まで、東京・台場で北朝鮮工作船や武器類などを一般公開。見学者は約163万人に上った。

工作船事件を風化させないよう船体の保存を求める声に、海上保安協会は展示保存施設建設に向け、全国に支援を呼びかけた。一般公開の見学者などからの約3000万円をはじめ、関係団体・企業、自衛隊、海上保安庁の職員・OBなど全国から工作船保存募金が寄せられ、9月30日、約1億510万円に達した。

6月10日には、工作船展示保存施設建設工事の入札が行われ、東洋建設㈱横浜支店が7980万円で落札。横浜海上防災基地で、鉄骨造り、平屋建て、高さ13メートル、建築面積520平方メートルの施設建設が始まった。

工作船保存募金は展示保存施設建設のほか、これまでに募金活動経費や工作船の架台製作など保存のための諸経費として約1800万円が充てられている。このほか、施設の設計費や建設に伴う関連付帯工事費に活用される。


建設が進む北朝鮮工作船展示保存施設

薬物海上取締セミナー

国際取締体制構築へ

12日から東京で

海上保安庁は10月12日から14日まで、東京プリンスホテルで「薬物海上取締セミナー（MADLES2004）」を開催する。アジア各国と米国の海上保安機関、薬物取締機関と国連の計15カ国・27機関が参加予定で、各国の薬物情勢に関する情報交換や、東京湾で海上取締りのデモンストレーションを行い、国境を越えた海上取締り対策の構築を目指す。

世界的に深刻な薬物情勢への懸念から、昨年4月の国連麻薬委員会で、▽UNODC（国連薬物犯罪オフィス）取締マニュアルの活用▽取締機関実務窓口の登録▽海上での薬物取締機関間での訓練・研修を柱とした国連決議「海上における薬物不法取引の取締りのための国際協力強化」が採択された。

また、昨年7月には、国内の第3次覚せい剤乱用期の早期終息と世界的な薬物乱用問題の解決を目的として、「薬物乱用防止の新5カ年戦略」が決定され、国際的な取締体制の構築の一環としてMADLES2004開催を盛り込んだ「薬物密輸入阻止のための緊急水際対策」が策定された。

これらを踏まえ、海上保安庁は東南アジアを中心とする各国との連携を強化し、各国が一体となって海上ルートでの薬物不正取引の防止に向けた取り組みを強化するため、UNODCと協力してMADLES2004を開催することになった。

セミナーでは、アジアの海上保安機関、薬物取締機関が一同に会し、各国の薬物情勢や取締り能力向上への取り組みなどについて情報交換するとともに、UNODCによる国際的な施策について理解の促進を図る。また、各国の情報交換のためのネットワーク構築についても検討する。

最終日には、東京湾で巡視船艇11隻、航空機2機が参加して、海上密輸取締りのデモンストレーションを行う。「外国関係機関からの覚せい剤密輸情報により捜査中、外国貨物船と暴力団のボートが洋上取引することが判明した」との想定で、捜索・監視・捕捉までのデモンストレーションを行い、参加各国に密輸に関する情報交換の重要性を認識してもらうとともに、実践的な海上密輸取締り技術の普及・向上を図る。

和歌山保安部が開所式

14年ぶりに保安部開設

200人が出席

開所式で訓辞する石川長官

田辺保安部和歌山分室から昇格した和歌山保安部の開所式・祝賀会が10月5日、石川裕己海上保安庁長官も出席して和歌山市内のホテルで行われた。保安部の設置は金沢保安部開設以来、全国で14年ぶり。

開所式では、萩原博美五管本部長の式辞に続いて石川長官が「県庁所在地に保安部を設置したいというのは海上保安庁の念願だった。今後はその地の利を生かして関係機関と連携して和歌山県の海の守りにあたりたい」とあいさつした。

式には木村良樹和歌山県知事、地元選出の国会議員、自治体関係者など約200人が顔が出席した。式の最後に新任の小吹秋良保安部長が「密航・密輸の水際対策、地震・津波対策、テロ・防災対策など課題は多いが、職員一丸となってまい進し、県民の期待に応えたい」と決意を述べた。

祝賀会では鶴保庸介・前国交大臣政務官（参院議員）ら出席者から期待を込めた祝辞が寄せられた。

同保安部は和歌山県では2カ所目。管理課、警備救難課の2課と1000トン型の大型巡視船「きい」、20メートル型巡視艇「きいかぜ」を擁し、和歌山県北部海域を担当する。

10月14、15日に 管区本部長会議

石川裕己長官就任後初の管区本部長会議が10月14、15の両日、海上保安庁会議室で開かれる。同会議には9月27日に就任した北側一雄・新国土交通大臣の出席も予定されている。

初日の14日は長官訓辞の後、各管区から「重要課題への取り組み状況」についての報告が行われる。

15日は各管区ごとに本庁各部と懸案事項についての個別折衝に充てられる。今回はテロ・治安対策、危機管理などが主要テーマになるとみられる。

映画「海猿」制作3社に 石川長官が感謝状贈る

海上保安業務への理解深める

潜水士を目指す若き海上保安官を主人公とした映画「海猿ウミザル」を制作した㈱ロボット、㈱フジテレビジョン、東宝㈱に対する海上保安庁長官感謝状贈呈式が9月30日、長官室で行われ、石川裕己長官から各社の代表に感謝状が手渡された。

海上保安業務に対する国民の理解と関心を高めることに貢献したことが受賞の理由。

映画「海猿ウミザル」は、海難救助の最前線で活躍する潜水士を目指す新人海上保安官たちの葛藤と成長、信頼と友情を描く海洋エンターテインメントで、海上保安庁が撮影に全面協力した。

観客動員数は150万人以上を記録し、映画を見て海上保安官を目指す子供たちもいるほどの人気だった。

羽住英一郎監督（左）に感謝状を贈る石川長官

週間海難情報

9月27日(月)～10月3日(日)

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は5隻、28人だった。

種類別	隻数
衝突	12
乗り揚げ	5
転覆	2
火災	1
爆発	0
浸水	1
機関故障	5
推進故障	4
舵故障	1
行方不明	0
その他	2
計	33

潮流

▼土曜日の昼。妻と2人で、近くの焼き肉屋に入った。それぞれのビールと、カルビ焼き付き石焼きビビンバを注文したが、なかなか出てこない。声をかけると、ビビンバを持ってきた。「ビールは?」に、今度は妻のグラスビールだけが……。食べ始めて気が付いたが、焼き肉用の皿もなかった▼翌日曜日の夕。2人で中華料理屋へ。ビールを飲んでいると、「ご注文の鶏の唐揚げです」。「頼んでいないよ」に「アッ」。月曜日の昼。少し遅い昼食をとるため、チェーン店の席についた。スダチおろしうどんを頼む。スダチを絞って、つゆをかけようとしたら、とっくりの中に、つゆが入っていなかった▼作り話ではない。最後の例では、目の前の店員も、あ然としていた。どれもアルバイトの店員は、ある程度、マニュアルにのっとって行動したのだろう。ただ、マニュアルの底にある精神を理解していなかった。「お客さまの立場で考える」という精神だ。「安全」の落とし穴も、こんなところにあるのではないかと考えさせられた、3日連続の体験だった。